

植物多様性センターの「タンポポの生存戦略」

カントウタンポポを始めとする在来種のタンポポは夏になると葉を枯らせて休眠します。それに対して、都市部でよく見かける外来種のタンポポは一年中花を咲かせて沢山の種を作るため、競争力が高いように思えます。しかし、夏には周りの草が成長して日が当たらなくなります。すると、外来種のタンポポは花を咲かせるために多くのエネルギーを必要とするので弱ってしまいます。背が高い草の多い草地では、夏も頑張る外来種のタンポポより、夏を休んで乗り切る在来種のタンポポが向いているようです。



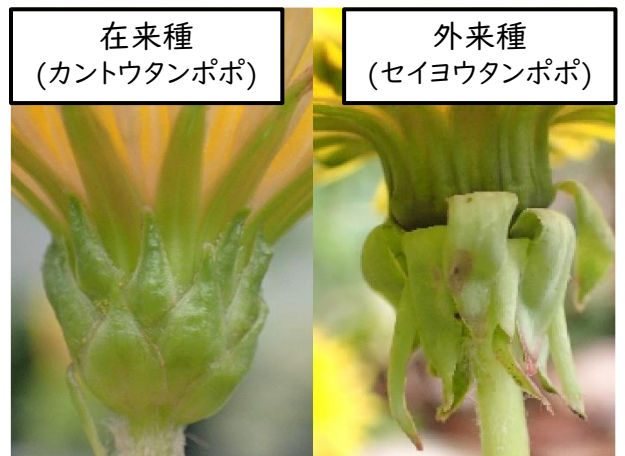
カントウタンポポの頭花。小花の数は外来種より少ない。



舗装の間隙で元気に咲くセイヨウタンポポ。



学習園の高茎草地エリアで咲くシロバナタンポポ(在来種)。



外来種のタンポポは外側の総苞(総苞外片)が反り返る。